

# pro

## Proceedings 議事録



- 日時 : 平成28年3月28日（月） 14:00～15:15  
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 6号棟 2階 教育会議室1
- 出席者 委員 : 中村 恵子（新潟青陵大学 教授）  
福島 實（新潟市子ども会連絡協議会 会長）  
近藤 淳一（新潟国際友好会館 館長）  
齊藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課 副参事）  
長浜 裕子（新潟市教育委員会 教育次長）  
  
丹治 嘉彦（新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）  
逸見 覚（(株)けんと放送 取締役 放送局長）  
池主 透子（TC-Wave 代表）  
菊野 麻子（フリーアナウンサー）  
長井 亮一（新潟市文化スポーツ部 部長）
- 出席者 事務局 : 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）  
枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）  
増田 徹（教育委員会地域教育推進課 副主査）  
中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）  
鈴木 稔直（文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）  
黒川 正憲（文化スポーツ部文化政策課 主査）  
宮崎 嘉孝（建築部公共建築第2課 係長）  
島田 敦（建築部公共建築第2課 主査）
- 出席者 策定支援 : 町田 誠（本間総合建築 取締役）
- 全体進行 : 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）
- 傍聴者 : 2名

## ◆ 議事内容

### 1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・今回で6回を迎えるこの検討会は今日が最後となる予定である。  
当初、新潟市初の青少年の国際交流、文化芸術機能を有する複合施設をどのように作るのかということに関して、合意イメージが持てなかったのも事実である。  
皆さま方から作りたいものは何なのか、魅力的な施設には何が必要なのか、そしてそれぞれが機能することで相乗効果を求めるためには、どのような施設が良いのかということについて、沢山ご意見を頂き基本構想という形になった。  
前は、その基本構想について最終的なご承認を頂きながら、さらに具体化する基本計画にシフトしたところである。その中でも施設として長い目で見た時に何が必要なのか、また利用者の目線から見て必要なものはないのか、という視点から沢山ご意見を頂いた。今日は頂いたご意見を整理し皆さま方にお示しして、ご意見を頂きたいと考えている。  
来年度は、これを受けて基本設計、実施設計の方へ向かっていきたいと思っている。  
また検討委員会で頂いたご意見やこれから出来る基本計画に則っていくことで、新潟市としては、こんな素晴らしい施設ができるのだということを強くアピールできるものと私たちは考えている。  
本日は沢山ご意見を頂きますように、よろしく願いたい。

### 2. 議事 ※進行は中村委員長

#### (1) 第5回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会 意見及び市の考え方

《資料》第5回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会 意見及び市の考え方  
資料1

《資料》（仮称）国際青少年ファクトリー （仮称）芸術創造ファクトリー基本計画（案）  
08 整備方針

#### ・資料1を説明

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・前回の第5回検討委員会では、今後の整備に当たり様々なご意見を頂いた。  
その頂いたご意見が基本計画のどこに反映しているのかを、これから説明したい。  
前回の委員会では、かなり細かいご意見を頂いたが、整備の予算はこれからこの基本計画をもとに設計し、その設計をもとに予算化されることになる。したがって基本計画は大きい意味での反映となってしまいが、その点についてはご了承頂きたい。  
ただし、これまで頂いたご意見はこれからの設計段階で検討、精査を行い対応していきたいと思う。今まで色々なご意見を頂きありがたく思う。

- ・事務局の考え方という中で、「芸術活動や教育プログラムとの連携を考慮した改修工事の内容を検討する」と「設計段階において精査し対応」の違いがわからない。何か意味合いがあるのか。方針ができているものがあれば、教えていただきたい。

(池主委員)

→ プログラムの連携を考慮した改修工事はソフト・ハードの部分 considering 施設全体として考えていかなければならないという意味。

設計段階で精査したいものとしては、ギャラリーの仕様や和室がそうになっているが、「ギャラリー」は細いもの、例えば展示物のピクチャーレールとかビス、また和室の床の間などは整備方針の中にははっきりと載せることができなかつたこともあり、設計段階において精査すると記載している。但し、施設内容に作品を展示するギャラリー、日本文化を学べる和室もあるので、その中に要望は記載されていると理解して欲しい。

(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・設計段階で精査する主体はどこか。(中村委員)

→ 事務局と今後お願いする設計業者と基本計画をもとに検討していく予定である。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・08整備方針 2.建築改修計画方針の最後に連携の部分が謳われており、連携も大事だが、まずは芸術と教育のそれぞれの特性に応じた設計をしつつ連携を行うという記載が良いのではないか。(長浜委員)

→ 基本計画(案) P09-10に機能施設内容が書かれており、それを網羅しての合わせた連携という表現でも良いと思う。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・08整備方針や資料1の中に検討という言葉があるが、検討した結果、財政面も含めて採用されないということもあるだろうし、その検討手順をスケジュールを含めて、ご教示いただきたい。(丹治委員)

→ 今回、基本計画が策定されると、その後、基本設計、実施設計と移り、9月くらいには完成し、それをもとに予算要求をしていく予定である。

また、今までに頂いたご意見は、予算内で優先順位を見ながら可能な限り細かいところまで反映していく予定である。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・設計において形が出来てくると、今まで出てきている意見以外の考え方が新たに出てくるのではないか。6月に青写真ができた内容でFIXとなると身動きができなくなる。それでは不自由であるので、可能な限り余白を残しつつゴールを迎えられると良いと思う。(丹治委員)

→ 確かに前回の委員会も図面を見てイメージのみで話していたところがある。

(中村委員)

・丹治委員のおっしゃっている余白というのは、資料IのNO14「ギャラリーの仕様」ようなイメージか、もしくは構造的なことか。（長浜委員）

→ 構造的なことは耐震やエレベーターの問題は解決しなければならないが、例えば、合同で何か作っていくという場面とか場所に関しては、その決まった場所以外では使用不可ということではなく、柔軟に対応できる余剰価値を積み上げるシステムが欲しい。（丹治委員）

・ここに書かれている検討というのは現実する方向で検討していただけたらと思うが、フル装備で要求したとしても予算の都合でその9割しかつかないといった時に最終的なイメージとしては実現できないということはあると思う。

そういった時に何を優先するのか。（長井委員）

→ 今まで頂いたご意見を元に事務局で考えさせて頂くしかないと感じている。但し委員の中からご意見をいただけるのであれば、ご相談したいと思うが、検討委員会が本年度で終了することから、それも難しいと思う。

（枝並 地域教育推進課長補佐）

→ 検討委員会はないが、委員の皆さまからご意見を頂いているので、基本設計の段階でも結果や経過の報告を各委員にフィードバックして頂きたい。

（長井委員）

→ 検討、結果、経過報告は行っていくので、よろしくお願ひしたい。

（枝並 地域教育推進課長補佐）

→ 検討が進めば具体像が見えてくる。物を作る時には優先順位を付けていかななくてはならないが、現時点では優先順位を付ける検討が十分ではない。

ただし良いものを作ろうという志が終わらないように、検討内容は報告させて頂く。（佐々木 地域教育推進課課長）

・事務局で何か意見はあるか。（中村委員）

・施設の使い方の件で、靴の履き替えか土足のままで良いのかの、ご意見をお聞かせいただきたい。新潟県少年自然の家だと履き替える。また不特定多数の施設だと外履きが基本。（枝並 地域教育推進課長補佐）

→ 青少年施設ということを前提に考えると、この施設は砂浜で遊ぶことが多いと考えられるのでサンダル履きになることが一般的だと思う。その場合は洗って干すという場所が必要だろう。新潟県少年自然の家の場合はそれが整備されていない。本施設の場合には洗う場所、干す場所が必要だろう。体育館で遊ぶ場合は上履きが必要だろうから、3階に上がるところで設置できると良い。予算がないからという理由でブルーシートではかっこ悪い。1階は大人なので土足で良いと思う。（福島委員）

→ 1、2階はスリッパで良いと思う。水と土の芸術祭の時には、担当者がスリッパを来客に渡すことで招き入れるということを示すことができた。また作品を保護するという観点からも大事と思う。（丹治委員）

→ 不特定多数の方が出入りする施設では土足が多いと思う。（中村委員）

- 私も水と土の芸術祭を見ている限りは、下足を履き替えるのが良いと思う。学校内は滑るという印象があり、その意味でも履き替える方が良いのではないか。(長井委員)
  - 海際にレストランが出来るという話もあり、海側からも入れると良いのではないか。(中村委員)
  - 選挙の時には履き替えが前提だったが、大変ということでシートを張って土足のままとまっているのが現状。また、個人的にはビニールスリッパを履きたくはない。(長浜委員)
  - 抗菌タイプ等、衛生面も考慮が必要だろう。(中村委員)
  - 個人的には靴を脱ぎたくはない。女性はストッキングを履いているとスリッパが脱げやすい。あくまでカフェ、食堂を利用する方は、土足でも良いのではないか。(池主委員)
  - 元々は教育施設であったということと、衛生面、メンテナンス、清掃や安全面からも私はスリッパを持参して履き替えるのが良いと思う。但し、子ども達の場合には安全面で疑問が残る。大畑少年センターの場合かどうか。(菊野委員)
  - 大畑少年センターは土足。雨天時の汚れ具合は悲鳴が上がる状態。旧二葉中の場合と同じ状況で2階、3階まで上がると考えると問題があると思う。  
(福島委員)
  - 大畑少年センターは雨天時、洗う場所はないのか。(菊野委員)
  - 小さな水道はあるが、玄関にマットを設置し汚れを持ち込まないように指導者が指導する。(福島委員)
  - カフェが土足の場合には汚れが持ち込まれるし、逆にそこで着脱しなければならなくなると利用者にとって不便になる。(中村委員)
  - 床がコンクリートであればそれ程汚れない。3階で履き替えるよりは1階で履き替えるのが現実的と思う。(福島委員)
- ・他に意見があれば、お願いいたします。(中村委員)
    - ソフトコンテンツ検討は、スケジュール的には何時頃を想定しているのか。  
(逸見委員)
    - 28年度を予定している。(枝並 地域教育推進課長補佐)

## (2)

《資料》 (仮称) 国際青少年センター (仮称) 芸術創造ファクトリー基本計画 (案)

- ・本日、基本計画 (案) をまとめさせて頂いたが、それ以外に参考資料という形で委員会議事録、パブリックコメント結果、先進事例を含めて納品予定。  
(本間総合建築 町田)

- ・ソフト的なものについて要望を幾つかお話ししたい。  
国際交流も含めて綿密なプログラムを作っていく必要があるが、大畑少年センターが行っている主催事業では不足だと思う。プログラムを作るにあたっては慣れた人間が必要でそのような組織を作って欲しいのが1点目。  
プログラムを効果的に運営していくマンパワーが必要ということが2点目。  
大畑少年センターは正規職員が一人もいないのが実情。非常勤の職員は頑張っているが、教員の中には社会教育主事のような資格を持った専門職が大勢いるので、一人でも二人でも配置することを教育委員会に要望する。（福島委員）
- ・長期間にわたり検討を重ねてきた委員の皆様一言づつ感想等をお話し頂きたい。  
（中村委員）
  - このような委員会に携わるのは初めてである。施設に関わるのも初めてである。  
2年後には国際と名の付く建物、国際友好会館と国際青少年センターが近くにできるので連携を取りながら、事業が重ならないように、国際的な事業が一步一步進んで行けたら良いと思う。（近藤委員）
  - 新潟県少年自然の家が建替えをする。この施設も沢山の方が訪れると良いと思う。教育委員会では、アグリパークにおいて体験するだけでなく、学習と繋げるということを推進している。アグリパークの活動の一部としてこの施設を利用する、また学習や国際交流の視点からも多くの方に利用して欲しい。  
（齊藤委員）
  - 目から鱗の意見も沢山頂いた。これらの意見をどのように取り入れていくのかが事務局の仕事だと思う。（長浜委員）
  - 4月から部署が変わり最後まで見届けられないのが残念。  
施設のオープン当初は一度は訪れて頂けると思うが、その後はソフトの中身で多くの方が利用する施設になると思う。国際青少年センターは既存の施設があるが芸術創造ファクトリーの方は全く新しい施設を作り出す中で、どのような内容を展開するのか、施設のあり方や方向性が決まってくることになるだろう。  
ただ施設が先にできて、やりたいソフトができないなど縛られることがないことを期待する。国際青少年センターもどのようなソフトを打ち出してくれるのか、楽しみにしている。（長井委員）
  - これまでも新潟市内の文化施設とか図書館などに携わってきた。そこで感じることは、その建物を活用することによって新潟市がどのようなビジョンを抱きたいのか。市民にはどのように利用してもらいたいのか。また、その施設を運営する人にも利用者する側のことも、きちんと理解した方にリーダーシップを取ってもらって進めていかないと作って終わりということになりかねない。  
連携がこの施設から始まる。名ばかりにならないことを期待する。（菊野委員）

- 青少年と芸術、さらに国際ということで、あちらを立てればこちらが立たず的な非常に難しい課題であった。難しいというのは可能性が非常にあるということだと思うので今後に期待したい。（池主委員）
- 青少年と芸術、国際という3つのキーワードからお話すると、旧水揚場に100mのストリートアートが、また新潟駅の万代口の床面に3Dトリックアートができたがその利用者は外国の方か女子高生が多い。  
青少年と呼ばれる若い学生たちと外国の人たちが芸術を通して、ウェルカムto新潟に触れるなら良いと思うし、そのような形でこの施設の連携が取れると良いと感じた。  
また、ハードにソフトが縛られてしまって、行いたいソフトがハードの都合上でできないということがないようにしなければならない。  
最先端のテクノロジーでは床からクジラが飛び出してくるような技術が出始めている。この施設ができる頃にはもっと身近になっていると思うし、床面のトリックアートもさらに技術が進化しているだろう。この施設が常に最先端の技術を取り入れた芸術ができる余白のある施設としてスタートして欲しい。（逸見委員）
- この場所が地域の人たちが集い学んだ場である旧二葉中だったことを忘れてはいけない。地域の方たちが迎え入れる施設になると自分たちのものになっていく。今までは階段を登ってきたが、ここで階段を降りて考えることも必要だろう。芸術というのは表現の面白さと同時に多面的なことを有していて後戻りすることも進化であったりする。  
そのような広い柔軟なイメージを持って対処して頂ければ、より良い空間になっていくと感じる。（丹治委員）
- 利用者が参画していく、一緒になって作っていく施設になると良いと思う。（中村委員）

### 3. 閉会

： 中野 力（文化スポーツ部文化政策課 課長）

- ・中村委員長を初め、委員の皆さま、8月の第1回から今日まで6回にわたり、真剣に検討頂き、ありがたく思う。4月からは、今日の意見を踏まえて基本設計、実施設計を進めていきたい。

この施設は国際青少年センターと芸術創造ファクトリーの2つの施設が融合して相乗効果を生むというのが一番の特徴であるので、この点に気を配りながら今後、設計を進めていく。

また、どういったディレクターを置くのかということも大きな課題と思っている。

今後、検討を進めていく中で、皆さまにも、ご意見をお伺いする機会が出てくると思うので、引き続き、ご協力をお願いしたい。

以上